特別支援教育にかかる　中学校・高等学校連携シート（記入例）

※すべての項目を記入する必要はありません。

作成日	平成　30年　3月　16日

情報提供先	校長名		○○高等学校　○○学科　○○コース			
情報提供元	校長名		○○立　○○中学校			
中学校連絡先	○○○-○○○○-○○○○		記入者名	教諭　○○○○		
生徒氏名（せいとしめい）	連携（れんけい）　太郎（たろう）		受検番号	59	性別	(男)・女

本人の様子	学校生活の様子	（授業態度、提出物の状況、休み時間の様子など） 授業に集中できないことがある。数学や英語は特に苦手であり、個別の学習支援を受けている。話し合い活動なども苦手であるが、意見を求められれば述べることはできる。提出物は促されれば提出することができる。休み時間は読書をしたり、親しい友人と話すなどして過ごしている。
		（部活動・委員会・係・当番活動の様子、学校行事への参加状況など） 清掃や係活動は、自分の役割が分かっている場合は機敏に活動できる。全体への指示では伝わりにくいため、個別に声をかける必要がある。
		（出欠状況など） (教室登校)・別室登校・その他（　　） （特記事項） 朝起きるのが苦手で、毎学年１０回以上の遅刻がある。医療機関への通院で早退することが月に１、２度あった。
	得意なこと	（得意なこと、興味のあること…作業、行動、教科など） 手先が器用で絵を描くことが得意。技術の授業でのパソコン操作なども得意であり、誰かと共同で作業するよりは一人で黙々と活動することが好きである。
	苦手なこと	（苦手なこと…作業、行動、教科など） 予定の見通しを立てること。突発的な時間割の変更に弱く、落ち着きをなくすことがあるので、口頭でもよいので、伝えておく必要がある。
	自分の特性理解の程度	(よく理解できている)・ある程度理解できている・あまり理解できていない・理解できていない （特記事項）　特性について本人はよくわかっていて、自分が苦手なことやできないことを担任に伝えることができる。
	診断・心理検査（検査名、検査日、検査機関、検査結果）・カウンセリングの時期等	
		アスペルガー症候群（○○クリニック平成29年7月19日診断） WISC-Ⅳ　FSIQ90（○○クリニック平成29年7月3日検査） スクールカウンセラーとの面談は２か月に１回程度。
支援の方針	学習への支　援	（別室指導の有無、通常授業内での個別支援、授業外での個別支援の内容や頻度） 数学や英語は特に苦手であり、支援員が来校する日は別室にて個別の学習支援を受けている。放課後は、市の教育相談課が行う学習支援を受けている。
		（定期テストでの配慮）　(あり)・なし 具体的な配慮 本人の緊張を落ち着けるため、別室でテストを受けている。
	日常生活での支援（医療・福祉サービスを含む）	（身辺自立の頻度、身体面や心理面での支援など） 通院している○○クリニックにて、カウンセリングを定期的に受けている。 また、スクールカウンセラーとの面談も不定期であるが行っている。
	対人関係等の支援	（コミュニケーションや集団内での社会性を育むために必要な支援など） 相手の気持ちを考えさせるのではなく、それによって最終的に自分が不利益を被るということを教える。 例）「～だからやめておいたほうがよい」

上記の内容を確認し、進学する高等学校への情報提供に同意します。

平成　　年　　月　　日　　保護者氏名　　印

＊この様式は、播磨西地区サポートネット会議の連携シートを参考に作成しています。